

播磨国風土記事業の継続を願う



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)



問 平成 25 年度からの播磨国風土記事業の取組について。

答 播磨国風土記編さん 1300 年となる平成 27 年に向けて、風土記を学び、古代のふるさとを知ることで、ふるさと加西に対する愛着や誇りを持ち、育むことを目的として開始しました。

新しい文化の創造事業として、根日女伝承を能狂言でよみがえらせ、地域の活性化と郷土愛を育むため、梅原猛氏による新作能「針間」、野村萬斎氏による新作狂言「根日女」を制作しました。能狂

言イベントは令和 4 年まで 7 回開催し、合計で 4,928 人の来場がありました。また、光田和伸氏による播磨国風土記講座は 42 回開催し 4,527 人の受講がありました。こども狂言塾の塾生は、第 9 期生まで合計 104 名が学び、豊かな表現ができるようになりました。

問 この事業によって、播磨国風土記に興味を持ち、能狂言を鑑賞し楽しむという、お金に代えられない心の豊かさが培われてきた。新作能、狂言を創作し、加西市の名が全国にとどろきました。これらを市長はどのように評価されているのか。

答 (市長) 市外への情報発信の成果は否定しませんが、一方、市民の参加率やこども狂言入塾者数が減少しているなど、市内に向けては独り歩きの感が拭えま

せん。特に、1 時間に 1,000 万円もの予算が市外へ流れていると問題視される市民も多く、中止することを決断しました。

問 費用面だけで一方的に中止し、子供たちの意欲をそいでしまうのではなく、新作能、狂言を引き継いでいくことが、これからの加西市にとって必要だと思うが。

答 (市長) 1,000 万円の市の予算をもっと身近な、地域伝統文化、祭りの承継支援へ有効活用していきたいと考えています。

意見 加西市の援助がなくなったとしても、こうした文化は継続していかなければならないと思います。どうしていくかは、市民全体で考えていかなければならないと思います。

市長の政治姿勢の丁寧な説明を！



森田 博美 議員
(清流会・かさいを育む会)



問 加西病院や学校再編等の見直しを表明する市長の所信表明には詳細が発表されると認識していたが、説明が不十分であるがゆえに無理筋の方針転換と言わざるを得ない。特に、病院建設は議会として予算を議決している。その議会に対しては、行政の最高責任者として説明が必要ではないか。方針転換に伴う無用な混乱は避けなければならないのでは。

答 (市長) 施政方針とは違うために文書配布せず、話し言葉での表明で内容的に短くし、全

て網羅せず割愛した所信表明としました。病院については、3 月時点で費用が 138 億円と知り、様々な政治活動的な決起集会等ではきちんと述べてきました。

問 病院建設の見直しが無理筋にならないか、見直しはあるのか、そのめどはあるのか、確信はあるのか、それらが伝わっていない。関係機関との信頼関係が維持できるのか危惧するが。

答 (市長) 誤解されているようですが、病院建て替えには反対していません。現地での建て替えには無理があり、高額な経費増となります。現状案では非常に大きな信用失墜になるとの判断から、建築の問題と理解しています。

問 所信表明にない産科開設について、新規設備費の見積

り、医師と看護師の必要数等を検討された意見表明なのか。

答 (市長) 加西病院の中での開設は非常に難しく、可能性はほぼゼロに近いと思います。ただ、開業医の進出を考えています。

問 加西病院はいつ新しくなるのか。学校はどうなっているのか不安に思う市民も多数いることを踏まえて説得力ある内容で説明すべきではないか。

答 病院は予定より 2～3 年遅れ、前倒しが可能なら早期に進めたいと考えます。

意見 文書による所信表明は前例がなくとも、加西市にとっての大転換の内容から、行政の責任者として話し言葉であっても重要な部分は説明すべきではないか。